

タイトル	千島列島における資源・土地利用の歴史：国際調査（KBP）から見えてきたもの
著者	手塚，薫；TEZUKA，Kaoru
引用	北海学園大学人文論集(47)：105-107
発行日	2011-11-30

千島列島における資源・土地利用の歴史 — 国際調査 (KBP) から見えてきたもの —

発表者 手塚 薫

全米科学財団による研究費の提供を受けて2006年～2008年に千島列島各地で実施された国際学術調査 (Kuril Biodiversity Project ARC-0508109) のメンバーの一員として参加した時の体験をもとに標記テーマで発表したものである。

総延長東西1,200 kmを優に超え、冷温帯から亜寒帯にかけて位置する千島列島では生存に必要な原材料の確保が難しいことから、千島列島で産出しない素材は周辺地域からの導入に依存せざるを得ない。このため生物地理学的な原則と島の立地がきわめて大きな意義を有している。人間が生存に活用する陸上動植物の種数も大陸から近く大きな島の方が、大陸から遠く離れた小さな島より多いという原則が当てはまる。

島嶼は空間的広がりが明確であり、自然の影響が大陸や大型の島に比べ大きくなりがちで、資源の不連続性や低い環境収容力 (キャリングキャパシティ) が特徴的である。島嶼への移住を試みようとする者が新しい環境に適応するためには、いろいろな知識をもとに試行錯誤を繰り返す必要がある。最も効率のいいシステムを確立した場合には、自分たちの集団の維持につながる。そこで、島嶼環境を生存の機会を高めるための資源利用の舞台装置とみなし、人間集団が島嶼環境にどう適応したのか、生存の鍵を握る資源獲得やその流通に関する社会ネットワーク関係を議論の中心とした。

先史時代の石器製作の主要な素材である黒曜石の流通に各島がどのように関わったかを、理化学的な原産地推定分析結果と社会ネットワーク分析

(SNA)の観点から考察している。

千島列島では良質な黒曜石の産地は知られていないが、遺跡から出土する石器素材の中では3番目に多い。千島列島中8島に所在する18遺跡で発掘された黒曜石の剥片石器131点を、ワシントン大学らの研究チームが蛍光X線(XRF)を用いて原石地の推定を試みたところ、2500BP-750BP間の過去1750年間における石器の原産地について興味深い事実が浮かび上がった。すなわち、原石地の候補としてカムチャツカに5カ所、北海道に4カ所、不明地点2カ所が判明し、石器素材の60.3%がカムチャツカから千島列島に入り、残りの39.7%が北海道から千島列島にもたらされていた。この情報をもとに社会ネットワーク分析を行うと、原石地と出土地の関係がさらに明瞭になった。ウルップ島とシムシル島を隔てるブッソル海峡がカムチャツカ・北海道産黒曜石の流通の境界になっていることが判明した。つまり、カムチャツカの原石地から運ばれた黒曜石の多くの南限はチルポイ島であり、一方、北海道産の黒曜石の多くはウルップ島どまりである。この海峡は千島列島中109kmと最大の距離があり、太平洋とオホーツク海の間潮流の流れも激しく、原料の供給と交通の利便性とは見合った均衡点に相当していたと推定できる。宮部線で示されるような生物地理学上の境界よりも北に偏っているが、物資を運搬するなど直接的な海上交通の点でブッソル海峡がより大きな障壁となっていたと考えられる。

さらにネットワークにおける階層構造をモデル化するために3種類の中心性分析を行った。その結果を総合得点で示すと、1位がシャスコタン島、2位がクナシリ島、3位がチルポイ島となった。1位のシャスコタン島は北部千島列島と中部千島列島の境界に位置し、2位のクナシリ島は北海道から千島列島に進出する際の玄関口にあたり、3位のチルポイ島はブッソル海峡の横たわる南部千島列島と中部千島列島の境界に位置する。これらの立地は、原石地へのアクセスが複数存在し、狩猟採集生活の維持にとって必須となる黒曜石の安定的な供給を保障しているとともに、それらの石材を周辺の島々に再配分する際の「兵站庫」としても機能していたことを示唆する。

このことは島間の移動が自然条件によって厳しく制限されるような千島列島の地理学的な特性を考えた際には非常に興味深い。社会ネットワーク研究では、「スモールワールド現象」のシミュレーションから、規則正しく隣同士や隣の隣同士をつなぐだけのネットワークや、まったくランダムにつなぐネットワークと違って、規則的なつながりのなかに一部だけランダムなつながりがあるシステムのほうが、情報伝達特性や新しい機会の探索能力の点からみて格段に優れていることがわかっている。これをもし先史時代に当てはめるなら、生存に係わる情報や資源などへのアクセスの点で有利に働くことを意味している。千島列島の各島と原石地との間のネットワークはこうした事情を反映して、原石地から遠ざかるにつれて関係が希薄になるのではないことを示している。むしろ、有用資源をどのように周辺地域へ流通させるのかといった島ごとの原料調達・保存・流通のあり方と密接に関連していると考えられる。